

東京の通販運営会社

## 「食品ロス」削減へ 商品提供呼び掛け

小豆島で説明会

賞味期限が迫るなどした食品を割安に販売する通販サイト「KURADASH I.jp」を運営するクラダシ（東京）の関藤竜也社長(48)が、小豆島町で島内の食品製造業、生産者向けに同サイトへの商品提供を呼び掛ける説明会を開いた。写真。食べ物が無駄に捨てられる「食品ロス」の削減につながるとして、参加者は大きな関心を示した。

同社は2014年創業で、翌年にサイトを開設。食品を中心に月600品ほど扱い、希望小売価格より平均6〜7割安く販売している。売り上げの3%程度は環境保全や社会貢献に取り組む団体に寄付されるシステムで、そうした取り組みが受けて現在の会員数は

約7万7千人、協賛企業は大手を含めて約580社という。

説明会は3日にあり、オーリーブ加工販売会社やそうめん製造業者などから約20人が参加。関藤社長は食品ロスの現状を紹介した上で「賞味期限が残り1週間と



いう商品でも扱うので、『原価は回収したい』という思いに応えられる」などと商品提供へ協力を求めた。

参加者からは「農産物を出品する場合、値段はある程度決まっているのか」「消費者からクレームがあったときの対応は」などの質問が上がっていた。